

和歌山県教育センター学びの丘 広報誌

まなぶだより

令和7年度 第3号



学びの丘イメージキャラクター
まなぶ

働く上で大切にしていること

- ・授業に生きる
- ・怖いところから一歩

CONTENTS

1 「教育活動を組織化するリーダー」に期待

～教育経営研修（新任校長研修）～

2 「当たり前」を疑う

～中堅教諭等資質向上研修共通研修～

3 特別支援教育の充実を目指して

～新たな研修観を創造する～

4 「きのくに授業交流会」

～視聴者の多様な意見から授業を振り返ってみませんか？～

5 学びのポケット

「教育活動を組織化するリーダー」に期待

～教育経営研修（新任校長研修）～

今年度2回目となる新任校長研修は、環太平洋大学の浅野良一教授を講師に招き、OJD(On the Job Development)をテーマに学校経営能力の向上を図りました。講義・演習では学校経営に係る多くの理論や事例が示されました。その中の一部を紹介します。



- ・組織マネジメントの基本中の基本は「**重点を定めて、強みで取り組む**」こと。重点事項があいまいで、弱みで右往左往しているようではうまくいくはずがない。
- ・企業では個人の仕事の範囲が明確であるのに比べ、学校組織においてはそうではない。だからこそ、そうした**不明確な仕事に積極的に関わる**（三遊間のゴロに飛びつく！）**ことが大切**であり、そうした教職員が増えてくれば、さらに組織全体が活性化していく。

研修後レポートから

- ・本日の研修で、本校の強みと弱みが明確となった。特に強みについて、理論的に裏付けができた。これは管理職として自信となったし、教職員のモチベーションアップにもなる。
- ・校長となりそろそろ半年、学校運営に悩んでいた自分に一筋の光が見えた気がした。

「当たり前」を疑う ～中堅教諭等資質向上研修共通研修～

8月20日（水）実施の中堅教諭等資質向上研修共通研修3では、慶應義塾大学の大木聖子准教授に防災教育に関わって講義をいただきました。その中の一部を紹介します。

阪神・淡路大震災後、学校耐震化が進み、公立小中学校校舎の耐震化率は99.9%（令和6年10月現在）。これまで耐震化された学校施設の崩壊は皆無です。この事実を知っても、従来の避難訓練だけを繰り返しますか。

余震が発生します。泣き叫ぶ児童生徒も、負傷した児童生徒もいます。停電で校内放送も使用不可かもしれません。

先生方が考える「**避難訓練のねらい**」は何でしょうか。

机の下に潜り、「大丈夫だよ」「がんばろう」と児童生徒同士で励まし合う。発災時にそんなことが自然に起こる学級経営はできていますか。

訓練は教育課程に位置づいています。

「当たり前」を疑う

- ・毎回授業中に訓練を行っている
- ・校庭に集合するように指示している
- ・雨天時は順延
- ・評価基準は、「全員が集合するまでの時間」

避難訓練は何のために？



- ・訓練（防災）を通して、こどもたちにどのような資質・能力を身につけてほしいのか
- ・訓練（防災）を通して、こどもたちは何ができるようになるのか
- ・訓練（防災）を通して、こどもたちは何を学ぶのか

学校の「当たり前」に対する見方を少し変えるだけで、ハッと気付くことは多くあります。

RE:DESIGN
"BOSAI"
ウェブページ



大木聖子准教授の研究室では
様々な防災教材を提供しています。

← 左の二次元コードからアクセスできます。



特別支援教育の充実を目指して ～新たな研修観を創造する～

インクルーシブ教育システムの推進を目指し、教員の専門性向上を図ることが急務とされています。そのような中、教育センター学びの丘が実施する「特別支援学級担当教員研修」を本県における特別支援教育の専門性向上に係る研修パッケージの一環として位置づけ、特別支援教育課と連携しながら新たな研修の創造に取り組んでいます。本研修パッケージは、新任特別支援学級担任が、自信をもち、安心して特別支援学級を担任できることを目標に、継続的に学ぶ教員を支えます。対面研修では、特別支援教育の土台となる自立活動の指導や障害種別に応じた授業づくりを取り上げました。特別支援教育の基礎基本事項や各障害種別の特性理解などについては、オンデマンド型の研修プログラムを設定し、指導者が必要な時期、個々の業務を考慮しながら効果的に活用できるようにしています。



特別支援教育の専門性向上に係る研修パッケージ



支援を必要としている子どもたちが、安心して過ごし、自分らしく学ぶには、まわりの支えも大切になります。県オリジナル動画や「学びラボ」など、誰でも気軽に学べる場が広がっていますので、まずは知ることから、はじめてみませんか？

なお、NISE 学びラボは利用申請を行うことで、いつでもどこでも特別支援教育について学ぶことができます。特別支援教育の視点を生かした取組がもっと広がっていくことを期待します。

NISE 学びラボの
二次元コード



お知らせ

「きのくに授業交流会」

～視聴者の多様な意見から授業を振り返ってみませんか？～

県内の小・中学校を対象に、「きのくに授業交流会－みんなで授業改善－」を実施しています。先生方の日常の授業を動画撮影し、それらをプラットフォーム上で公開します。授業視聴者から、コメントをもらうことができ、授業改善に役立てることができます。先生方の授業の悩みの解決につながるようなヒントをもらえるかもしれません。

きのくに授業交流会の詳細については、右の二次元コードから確認してください。



申込・問合せ先
研究開発課 きのくに授業交流会担当
【TEL】0739-26-3494



中央教育審議会教育課程企画特別部会 論点整理（素案）

～学習指導要領改訂にむけて～

学習指導要領改訂の大まかな流れ

令和7年9月5日、論点整理（素案）が出されました。

文部科学大臣から
中央教育審議会に諮問

中央教育審議会の
議論

中央教育審議会
から答申

学習指導要領
改訂

令和6年12月25日、
諮問が出されました。

子供からの
意見聴取

パブリック
コメント
募集

パブリック
コメント
募集

令和6年12月25日 初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問のポイント：詳細版）より引用

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」の諮問やこれまでの検討から、次期学習指導要領に向けた今後の検討の基盤となる基本的な考え方は以下のように示されています。また、R8年度中に「答申」が取りまとめられるよう、検討されています。

論点整理（素案）
の二次元コード



次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化

主体的・対話的で
①深い学びの実装
(Excellence)

②多様性の包摂
(Equity)

主に第2,3,4,6章
(生きて働く「確かな知識」の習得、資質・能力育成の具体化・深化、「好き」を育み「得意」を伸ばす、情報活用能力の抜本的向上、個別最適な学び・協働的な学び等)

生涯にわたって主体的に学び続け、
多様な他者と協働しながら、
自らの人生を舵取りすることができる
民主的で持続可能な社会の創り手をみんなで育む

主に第3,7章
(調整授業時数制度、裁量的な時間、個別の児童生徒に係る教育課程の仕組み、デジタル学習基盤を活用した学習環境デザイン、個別最適な学び・協働的な学び等)

主に第5,7章
(授業時数の適正化・平準化、教科書の精選、構造化、裁量的な時間など様々な方策による教師・子供双方の「余白」の創出等)

③実現可能性の確保
(Feasibility)

学びをデザインする高度専門職としての教師

デジタル学習基盤

「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白

教育課程以外の勤務環境整備